

答申の内容

既存の取組

構想策定上の視点

- 可能性に挑戦するために必要となる力の育成
- 地域社会の持続的な発展を牽引する多様な力の育成
- 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネット
- 教育推進のための基盤の整備

高等学校のあり方

- 適正規模 160～320人（1学年）
- 地域における高等学校のあり方
 - ▶再編の検討には地域の実情等を考慮
 - ▶県外募集の実施
- 公私のあり方
 - ▶公私両輪で高校教育振興
 - ▶長期的視点と安定性を備えた公立高校収容定員策定方法

- 県境の3校（北杜、身延、上野原）で隣接県からの生徒を募集

入学者選抜制度

- 全県一学区制度の維持
 - ▶主体的な学校選択の促進
- 前期募集制度の維持
 - ▶複数の受検機会の保証

グローバル化への対応

- 外国籍生徒の受け入れ・フォロー体制の整備
 - ▶カウンセラー等のフォロー体制の整備
 - ▶就学の補助・助成制度の理解促進の取組
- 日本語が苦手な生徒の支援体制の整備
 - ▶高校進学へつなげる対応
 - ▶大学等とも連携したサポート
- 多文化共生に理解のある生徒の育成
 - ▶外国人とともに暮らす社会の担い手の育成
- 将来のグローバルリーダーの育成
 - ▶探究的活動等の教育展開や企業と連携した人材育成

- 留学生との交流や海外研修の実施、姉妹校との交流
- 入学者選抜における「帰国生徒等に対する特別措置」の実施
- 入学後の日本語指導を行う教育課程をおく高校の設定（笛吹、都留興譲館、中央）

人材の育成

将来のイノベーションリーダー・グローバルリーダーの育成

- 探究的活動の推進
- 大学・大学院等の高等教育機関進学を意識した教育
- 日本を牽引する人材として必要な知識能力の育成
 - ▶ AI、ロボットなど、論理的思考力、課題探究力などの育成
 - ▶ 大学等の教育機関と連携した教育
- 6年間の中高一貫教育の活用
 - ▶ リーダーとしての責任感の醸成
 - ▶ 継続性の高いキャリア教育
- 学科等の教育内容の明確化
 - ▶ 将来学びたい方向に照らした確信を持てる学科選択の促進

地域経済を支える産業人材の育成

- 産業のトータルな知識・技術の修得、学科横断的学習の展開
 - ▶ 学科の垣根を超えた横断的な学習機会の提供
 - ▶ 産業間の連携を図るような幅広い実践的知識・技術を有する人材の育成
- 産業界と連携した授業
 - ▶ インターンシップや産業界の講師による授業
 - ▶ ものづくりへの興味を高めるための取組
- 人間力の育成
 - ▶ コミュニケーション能力などの人間力を高める教育

- 専門教育学科における理数教育や探究的活動の実施
- スーパー・サイエンス・ハイスクールの活用
- 最新技術等に触れる校外学習（先端企業見学・大学見学等）
- 大学との連携協定による教育プログラム
- 数学オリンピック等各種コンテストへのチャレンジ

- 時代の要請に合わせた人材育成のための学科や総合学科の系列の改編
- インターンシップの実施
- スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの活用
- 関係教育機関や企業と連携した教育
- 地域資源を活用する商品開発等の実践
- 地域の特徴を生かす学校設定科目の設置
- ドローン活用の授業（工業科）
- 資格取得の推進

人材の育成

- 多様な分野の人材の育成
 - 生徒や社会のニーズを踏まえた学科等の展開
 - ▶ 中長期的な観点から学科や総合学科の系列等の対応
 - 普通科へ多様なコース設置
 - ▶ 福祉・看護系などのキャリアを視野に入れたコース設置
 - 地域社会・地域産業を支えるリーダーの育成

- 総合学科の系列の多様性確保
- 総合制高校（普・職・総の複数学科設置）における学科の多様性を活用した教育や行事の展開

多様なニーズへの対応

- 定時制の多部制・三修制の維持と制度の周知
 - ▶ 多様な学びの機会の確保
 - ▶ 生徒等への周知と幅広い活用の促進
- 通信制におけるさまざまな学び方の展開
 - ▶ 通って学びたいなど、さまざまな学びのニーズへの対応
 - ▶ ICT端末の活用等多様な学び方
- 不登校生徒等の高校への接続対策
 - ▶ 不登校生徒等を高校進学につなげる取組

- 各地域における高校教育を受ける機会の保証
- 定時制における少人数教育や職業的自立に向けた社会性の育成
- 定時制における通級指導の導入

中高一貫教育

- 併設型・中等教育学校の設置の検討
 - ▶ 設置前提ではなくメリット・デメリットを十分に検討
 - ▶ 交通の便、進学ニーズ、地域活性化などさまざまな視点から検討
 - ▶ 学習における生徒のサポートや教員の異動等により教育方針が変わらない仕組みの検討
- 連携型の導入成果等の検証

- H31.4に身延高校へ連携型中高一貫教育を導入

地域との連携

- コミュニティ・スクールの導入
 - ▶ 地域住民と学校・生徒を結びつけることによる地域や家庭の教育力向上
 - ▶ 福祉関連機関、産業界などと連携した地域社会のニーズ等の反映
 - ▶ 地域住民と学校の間に入り一定の役割を果たす人材の活用
- 地域人材の活用推進
 - ▶ 地域に潜在する人材の教育活動への活用

- 学校の所在する地域にふさわしい学校設定科目の設置
- 学校開放事業、交流イベント等を通じた地域に開かれた学校づくり
- 駅の飾花、清掃など地域活性化・地域貢献活動
- 社会のニーズ、地域の生徒の学習・進路のニーズに沿った学校づくりの推進

ICTの活用

- 積極的活用の検討
 - ▶ ICTの活用による個々の生徒に応じた質の高い教育など生徒の学習促進
 - ▶ 生徒自身が実践を重ねながら活用できるようにする取組
 - ▶ トラブル等のリスクに対応できる情報リテラシー教育の充実
- 教員の負担軽減と働き方改革への寄与
 - ▶ 学校運営上のメリットを生む活用
- 教員の知識や技術の向上
- 学校の持つ課題を解決するためのICTの活用
 - ▶ 遠隔授業（サテライト授業）などへの活用

- 電子黒板やワゴンプロジェクター等の学校におけるICT環境の整備
- 民間教育サービスを活用した学習の自己管理、目標管理、大学入試に活用されるポートフォリオの作成
- 学校における学習成果の蓄積
- 教務業務のICT化（WEB教務システムの導入）

学校経営

- 長期的ビジョンとPDCAサイクルによる学校の経営
- 社会が求める学校づくりの推進
 - ▶ 社会への訴求力が発揮され、その学校の生徒を社会が求めてくる学校づくり
 - ▶ 他県からも進学を喚起できる学校づくり
- 地域、産業界等との連携・協働
 - ▶ キャリア教育、地域への愛着の醸成、地域の歴史や文化に触れる機会づくり

- 校長のリーダーシップによる「チーム学校」体制の推進
- 校務や分掌の見直しなど、運営の合理化と適切な人材活用